

綾瀬川の今と昔



学習のねらい

- 綾瀬川のみかしのようすと、川と暮らしのつながりを学ぶ。
- 現在の綾瀬川の自然環境や水環境を学ぶ。

流域の暮らしを支えた綾瀬川

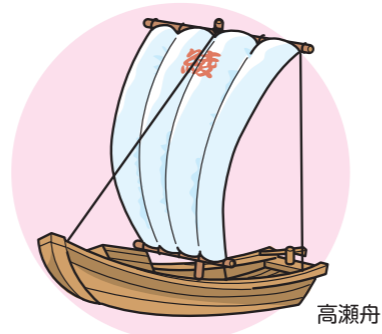
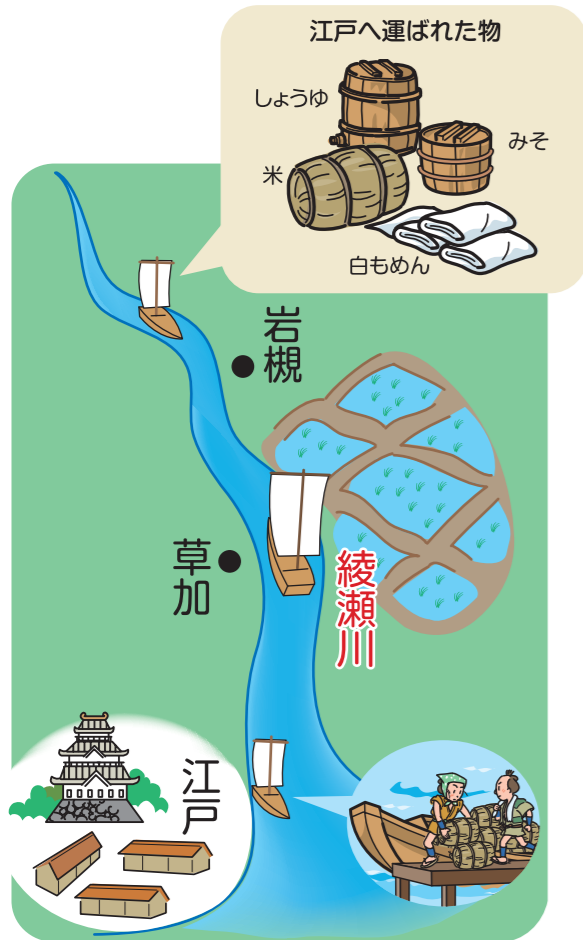
1. 綾瀬川と農業・漁業

綾瀬川は江戸時代以前は、荒川の支流であったと考えられています。しかし、1600年代初頭に伊奈備前忠次により荒川から分離され、それ以降農業の用・排水路としての役割を担うこととなります。そして用水が整備されると、流域は一大穀倉地帯となり、江戸・東京の台所をまかなうようになりました。その名残は、田園地帯の景観、古民家や屋敷林などに見ることができます。また、かつて綾瀬川では漁業が盛んに行われていました。沿川には、その名残を示す川魚料理店が点在しています。



大正時代のあじ網漁、さいたま市

2. 綾瀬川と舟運



高瀬舟

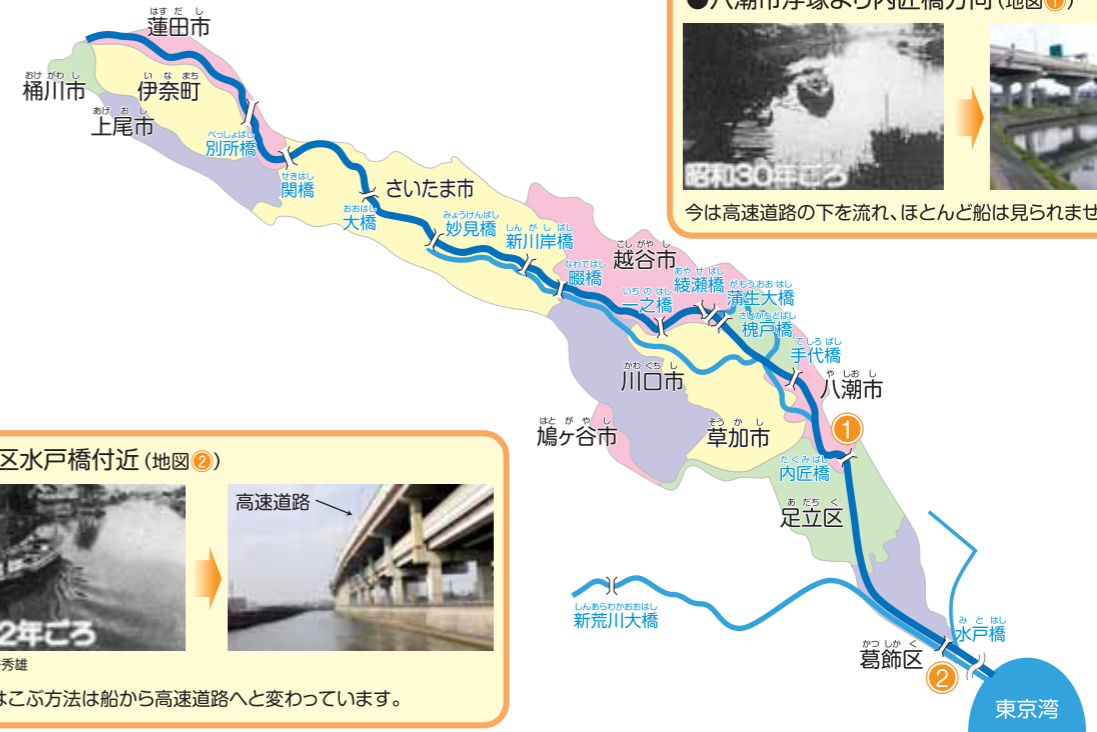
昔の綾瀬川は、流れが緩やかで水量が多かったため、川の交通（舟運）が栄えていました。特に、江戸時代中頃（延宝8年・1860年）に用水の堰がすべて取り払われてからは岩槻から江戸までが直通となり、江戸に米や野菜、肥料を運ぶための船がたくさん行き交い賑わいました。船に積まれる荷物は年貢米が中心でしたが、時代がたつにつれて、白木綿や味噌、醤油など様々な商品が江戸へ運ばれ、江戸からは肥料、石材、酒、石油、塩、砂糖などの日用品や肥料が、埼玉県秩父郡や入間郡からは木材などが運ばれました。

多くの船が行き交うため、綾瀬川流域では、“河岸”と呼ばれる荷物を運ぶ船の発着場ができて町が発展しました。綾瀬川では現在59ヶ所の河岸が確認されていますが、実際にはもっと多かったといわれます。大正5年（1925年）には、エンジンのついた5トンの発動機船「綾瀬丸」が登場し舟運がより便利になったため、多くの工場が川ぞいに建てられました。しかし、鉄道や自動車の発達によって昭和30年代後半に舟運は姿を消し、今では下流域でいかに船が見られるぐらいです。

綾瀬川の今

1. 綾瀬川の変化

自然豊かで、人々の暮らしと深いつながりがあった昔の綾瀬川の風景と、現在の風景との比較です。洪水対策のために下流部の綾瀬川はコンクリート護岸になり、直線化されました。そのため、水生植物や生き物の姿はほとんど見られません。この他、水田が激減したことにより水量が少なくなったことや、川のまわりに家や工場が増えたことなどが、今と昔の綾瀬川の風景の違いとして挙げられます。



●八潮市浮塚より内匠橋方向(地図①)



今は高速道路の下を流れ、ほとんど船は見られません。

●葛飾区水戸橋付近(地図②)



撮影：張ヶ谷秀雄

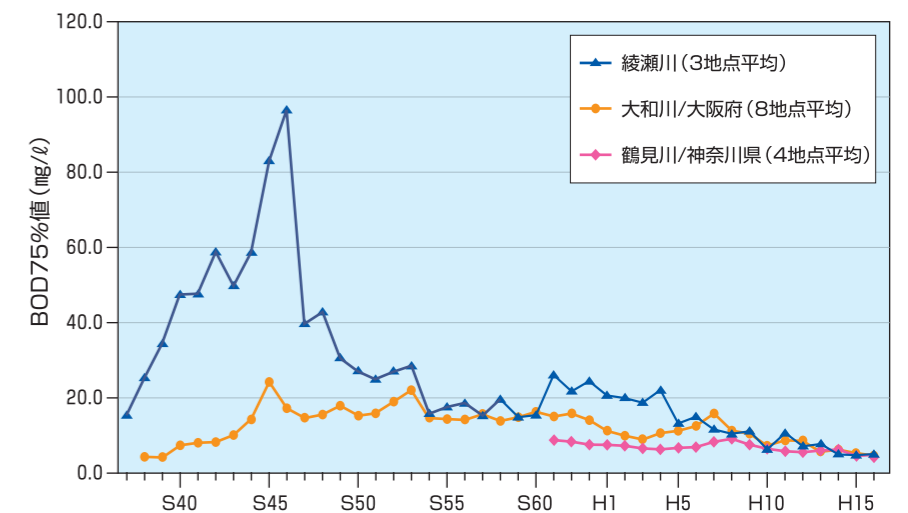
荷物をはこぶ方法は船から高速道路へと変わっています。

2. 汚れてしまった綾瀬川

綾瀬川の水質は、昭和40年代をピークに汚濁が進み、全国の一級河川のなかで水質ワースト1を昭和55年から15年間も記録しました。現在も毎年ワースト5に挙げられますが、行政と流域住民が一体となった取組みによって、環境基準を満足する程度まで綾瀬川の水質は改善しています。



綾瀬川・大和川・鶴見川の水質改善の経年変化



BOD75%値とは、1年間に測定を行ったa個の日間平均値を水質の良いほうから並べた時、0.75×a番目になる値。例えば、毎月1日測定した場合の、12個のBOD日間平均値を値の小さい順に並べたとき9番目の値が75%値になります。